



2023年夏渡航



2023年夏渡航

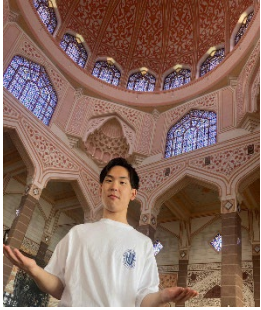


2023年夏渡航



日本とは異なる授業形態に刺激を受けた

工学部 機械工学科 3年 中条 輝さん



参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先： マレーシア・APU

私は4週間の語学留学でマレーシアのAPUに行ってきました。4週間と聞くと長いと感じる人もいるかもしれませんが、平日は大学の授業で休日はツアー観光などが設けられているため想像以上にあっという間に終わってしまいます。私は来年の春に交換留学をしようと考えていますが、海外に渡航した経験が1度もなかったため今回の語学研修に参加しようと決意しました。

私が語学研修を経て特に感じたことは日本と海外の授業の違いです。日本では授業の中では発言する場合では手を挙げて許可を得てから発言すると思いますが、海外ではそのようなことはありません。また、特にロシアの方々は積極的に発言していくのでなんとなく授業を受けてはすぐに取り残されてしまいます。そのため私は間違っても積極的に発言しようと考えた結果、かなり内容の濃い授業を過ごすことができたと感じています。この経験は残り少ない学校生活や社会に出てからも役に立つ経験だと思います。また私は英語を扱っていくうえで日本語の理解が乏しいことも感じました。今は日本語から英語に頭で変換してから使用しているのですが、何気なく使っている日本語の意味を細かく理解していないことが多々ありました。そのためこれからは英語の学習はもちろんのこと日本語も学習しなおしたいと感じました。

私はこのプログラムを通じて英語を話したり書いたりすることが当たり前でできなければならないと感じました。母国語が英語ではない国に行っても英語を話せる方は山のように存在します。実際マレーシアは母国語はマレー語ですが全員英語は私たち以上に話すことができます。4週間という短い期間ではありますが得るものはたくさんあると思います。ぜひ様々なことに挑戦してみてください。

プトラモスクにツアーに行ったときに
首相官邸の前で撮影した写真です。





語学研修では短い期間でも様々な経験ができます！楽しさ、うれしさ、つらさ、不安、どんな経験も確実に自分の力になりました。

工学部 機械機能工学科 1年 松本 侑也さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先： マレーシア・APU

とにかく外国に行って、英語を学びたい。そんな理由で語学研修最長である4週間のプログラムに参加した。4週間を終えた現在の感想だが、満足感と、確実に成長できたという充足感に満ちている。以下では自分の体験、自分が知っておきたかったことをまとめたい。

まず、マレーシアは英語を勉強するのに適した場所であるというのを強く感じた。英語での意思疎通が必須で日本よりも英語に慣れる機会が増える。その一方、欧米ほど厳密な英語でなくても通じる印象があった。そのおかげで、こちら間違いやその後の不安を恐れず、とにかく英語を使って話してみることができた。研修内では主に3つの場面で英語を使えた。一つ目に一日2コマ、午前午後授業、二つ目に授業開始前後に外国人と話す、そして三つ目に買い物や週末の旅行などだ。1つ目、2つ目は毎日英語を楽しんで使える機会であるのでお勧めである。さらに3つ目で自分は大きく成長できたと感じる。今回は1～3週目の週末は参加自由で、観光地やモールに行く予定が入っており、4週目はテストがあるため自由な時間が多く取れた。モールで何か買う際も店員さんが気軽に話しかけてくれるため英語にて返答したり、4週目には行きたいところを決定して、電車、バス、タクシーを乗り継いで行ったりもした。バスや電車には現地の便利なカード、タクシーには日本よりも格安でスマホから呼べるものなどがあり、それら非常に便利であった。ただ、現地では物価が2/3～1/2程度であり、クレカもよく使えるが、やはり現地通貨は分散してかつ大きすぎないお札で1万円前後は持っておきたい。マレーシアは日本と違い、多文化民族の国であり、イスラム教がメインだが宗教も様々で建築物も興味深いものが多い。現地の歴史や文化を知ると日本の良さを再認識できるという面もあり、非常に面白かった。どの場面においても少し勇気を出して行動してみるだけで楽しさは倍増します。自分もすべての事に勇気が出せたわけではなかったが、結果的にはためらい行動しなかった数より行動した数が上回っていた気がする。英語能力向上と様々な経験を積むという二つの面で非常に有益なものになった。

今回の留学でいろいろなことを学ぶことができ、とても楽しい海外生活になりました。

システム理工学部 機械制御システム学科 3年
湖海敬悟さん



参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先：マレーシア(APU)

英語が高校の時から苦手で、勉強しようと思うても、途中で投げ捨てるが多かったので、TOEICの点数を上げなければいけないのに点数が上がらずに迷っていました。その時に、友達から夏休みの一か月留学に行くと楽しく英語が学べるよと聞き、行く決意をしました。

滞在期間中は、120分の授業を2時間、ホテルに帰ってからその日の復習、宿題などをやる時間が設けられていました。1時間目の授業では、reading、writingを中心に学び、2時間目の授業では、speaking、listeningを中心に学びました。どちらの授業でも、ディスカッションを行い、海外の人との会話をたくさん楽しめました。また、APUの先生たちは、質問をすれば、わかるまで簡単な英語で説明してくれてとても助かりました。土曜日、日曜日のプログラムも充実していて、マレーシアの主要な観光地に連れて行ってもらい、記念写真を留学であった友達と撮りました。自分が特に楽しかったのは、サンウェイラグーンという遊園地です。そこは、ジェットコースターやプールがあり、1日では遊びきれないほど大きい遊園地で、楽しむことができました。

帰国してからは、マレーシアの授業中に聞いた海外の曲が忘れられず、そこから色々な英語の曲を聞き始めています。また、洋画も見始めていて、英語に興味を持ったのが自分でもわかるくらいでした。これから、TOEICの勉強をやり始めて、目標の点数に届くように努力したいです。





積極的に会話をすることが大事！

建築学部 建築学科 1年 杉浦菜美さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ


交換留学プログラム

■ 公開可否： 可 ・ 不可 派遣先： マレーシア・APU

英語力をつけたいと思いつつも普段は課題で手いっぱいなため、夏休みに集中して力をつけようと思い1ヶ月のプログラムに参加しました。

平日の授業は午前2時間、午後2時間の計4時間で休日にはツアーがあり、マレーシアの観光名所を楽しむことが出来ました。授業ではプレゼンをしたり、グループワークをしたり、エッセイを書いたりと座学だけでない貴重な体験が出来ました。グループワークでは隣の席の子や席の周りの子と話す機会があります。また、休み時間や昼食は自由に過ごすことができるので、外国の子達と会話をすることが出来ました。大学で何を学んでいるのか、家族の話、ペットの話、普段している事、将来の展望など浅い話から深い話ができるくらい仲良くなる事が出来ました。初めのうちは、会話をためらっていましたが、1ヶ月の間で自分から沢山話しかけられるようになり、他国の人たちと会話をする楽しさを知りました。外国の人はフレンドリーな人が多く、1ヶ月で沢山の友達が出来ました。そしてマレーシアでは多文化共生社会のため、食事のバリエーションが多くいろんな国の食を楽しむことも出来ました。朝食と昼食は学食で食べますが、学食にはマレーシア料理・西洋料理・韓国料理・中国料理・インド料理など沢山の国の料理を楽しめるようになっています。また、夕食は各自で食べないといけないため近くのレストランや屋台、Grab(タクシーのようなもの)で遠くに食べに行くことも楽しみの一つでした。

私はこのプログラムに参加し英語の楽しさを実感するとともに、英語へのモチベーションの向上にもつながりました。そして、いろんな国の友達との交流はとても楽しく、春休みや来年など機会があればグローバルPBLなどにも参加してみたいと思いました。



英語だけでなく、心も成長することができました。

工学部 情報工学学科 1年 鶴田 凌さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可 派遣先： マレーシア APU

私は、以前から海外の人と交流することに興味を持っていました。そのため、受験が終わった時から少しずつ日本で英会話の勉強をしていました。しかし、その勉強にもむらがあり、あまり英会話の力がついていませんでした。そこで、英語を話す環境に自分の身を置こうと今回の研修に参加しました。

留学中、私のクラスには、本当にいろいろな国の人がありました。そのため留学当初からほとんど英語を使ってコミュニケーションを取らなければならなかったです。もちろん、留学当初は、英語を思ったように話したり、聞いたりすることができず、大変でした。なので、外国人と積極的に会話することに加えて、ホテルに帰ってからも、youtubeや本を使って、英語に触れていました。そのおかげもあってか、留学終わりには、日本にいた時とは比べ物にならないぐらい、リスニング力とスピーキング力が上がっていたと思います。また、英語面だけでなく、自分の心も成長できたと思います。他の国の人達は、自分をしっかり持っている人が多く、とても堂々としていて、とても様々な考えをもっていました。そのため、自分自身もそういう人たちからとても刺激をもらうことができました。

私は今回の留学を通して、英語はもちろん、他にもとてもいろいろなことを学ぶことができ、色々な国の友達もできました。本当に自分にとって、良い経験になったと思うので、ぜひ留学してみてください。



異文化体験と英語のモチベーションアップ

建築学部 建築学科 1年 青木 俊介さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可 派遣先： マレーシア・APU

私は英語が苦手でした。留学することで何か変わるだろうと思い、APUに行くことを決めました。初めての語学留学だったのでとても不安でしたが、様々な国のクラスメイトが優しく接してくれたので充実した学校生活を送ることができました。

初日にクラス分けテストがあり、6つのレベルに分けられます。授業は午前と午後に各2時間、Listening & SpeakingとReading & Writingに分かれ、課される宿題を次回授業までにやってくるシステムでした。中間テストと期末テストとプレゼンテーションがあります。授業ではペアワークが多いので必然的に異なる国籍の生徒と英語を使って協力する必要があります。日本でやってきた英語の授業ではこのような環境になかったのでとても難しかったですが、英語を学ぶ必要性を再認識できたような気がします。休み時間には、お互いの国の文化などについて話しました。会話するときには、伝えようとする気持ちが大切だと知りました。

滞在先のホテルには日本人以外の生徒もいたので、一緒に夜ご飯を食べたり、洗濯に行ったり、週末はクアラルンプールを観光しました。クアラルンプールには、大型商業施設が至る所にあり、食事やレジャー、ショッピングが楽しめます。ホテルから少し歩いたところにある屋台のローカルな料理はどれも初めて口にするものばかりでワクワクしました。日本食は薄味が多いですが、とても辛かったりとても甘かったり、濃い味の料理が多かったように思います。また、日本とは全然違う建築や都市を楽しみました。

この語学研修を通して、英語の重要性を再認識することができました。そして、様々な人と会うことができました。とても良い経験になりました。

様々な国の生徒と授業を通して英語でのコミュニケーションをすることで、とてもいい体験となり、英語のハードルが下がった！



デザイン工学部 デザイン工学科 2年
秋山 詞音さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先： マレーシア・APU

以前から英語のスキルを上達させたいと思っていたが、なかなか英語を勉強する時間が見つからず、この語学研修を通して、語学学習のモチベーションを上げたいと思い、参加した。APUの留学は様々な国の生徒が多く、多文化に触れることができ、新たな発見が多く生まれた。英語の授業を他国の生徒と進めるが、英語をすでにしゃべれる人が多いため、英語でのコミュニケーションをとることができ、交流の機会が多いと感じられた。

一日の流れとしては、午前・午後で二時間ずつの授業となっており、グループワークが多いため、外国人とディスカッションしたり、プレゼンテーションに向けて協力して発表資料の作成を行うなど、必然的に英語を使う機会は多かった。学校が終わった後は課題が出され、一日を通してしっかりと英語を学ぶ時間が非常にあった。土日にはアクティビティが用意されており、マレーシアの観光地を回ったり、ショッピングモールで買い物したりと充実した休日を過ごすことができる。そのアクティビティにも外国人がいるため、友達になれば、休日も英語を使う機会が増える。

英語がすぐに上達するかと聞かれたらなかなか難しいとは思いますが、全体を通してこの語学研修に参加してとてもよかったと感じた。一番良かったと感じた点は、英語へのハードルが下がったことである。日本にいる間では、なかなか英語を使う機会はなく、外国人としゃべることなんてめったにない。英語を勉強しようと思っても、なかなかモチベーションが上がりづらいように感じていた。この留学で外国人と喋る機会が多かったが、なんとか自分の言いたいことを伝えようと努力をし、その結果もっと上達して、スムーズに対話できるようになりたいと思うようになった。これからはTOEICのスコアアップを目標に、英語に触れる機会を増やしていきたいと思う。



外国の方と積極的に会話をすることで英語力が向上しました。

また、留学を通して、英語を勉強することへのモチベーションが上がりました。

デザイン工学部 デザイン工学科 2年 亀田羽流さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先：マレーシア・APU

中学校で本格的に英語を習い始めてから英語への苦手意識が芽生え、英語の必要性を感じつつも勉強することに対してやる気を出せずにいました。そこで、実際に留学で英語を話さなければならない環境に身を置けば、話すことができれば自信になり、話すことができなければ英語の勉強へのモチベーションを上げることができると考え語学研修への参加を決意しました。マレーシア・APUを選んだ理由は、1ヶ月間という語学研修での派遣先の中で最も長い期間であることに加えて、現地の学生や同じ語学研修のプランで来ている留学生との交流が充実していることです。

滞在期間中、平日は午前中2時間、午後2時間の合計4時間の英語授業があり、派遣先であるAPUの学生とディスカッションをしたり、パワーポイントを使ってプレゼンテーションをしたりすることで自分の考えを英語で表現するという力を養うことができました。また、授業内だけでなく昼食の時間も一緒に過ごすことでより多様な考えを知ることや異文化を学ぶことができ、他言語を学ぶことへの意欲をさらに向上させることができました。

今回の語学研修では、明確な目的を持って取り組んだため得られたものが多く、満足感を十分に感じることができました。特に留学前に期待していた英語を話すことができるかできないかどちらにしてもプラスに働くだらうという考えは、思っていた以上に良い方向へ働いていることを体感することができました。話すことができた内容は今でもはっきり覚えていて、話すことができなかったことはノートに書き留め、次同じようなことがあれば話せるようになるとういう強い向上心に繋がりました。今後は、TOEICスコアアップで成長を数値で感じられるよう努力を怠らず、また、語学研修で培った力をベースに、グローバルPBLなどの他の上位プログラムへの参加を考えています。



すべてが英語なのでかなり強い英語の力が
手に入ると思います。

システム理工学部 環境システム学科 1年
大橋 弘祐さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可 派遣先： マレーシアAPU

今回私が語学研修に参加したのは、今までに海外にいった経験がなく海外に興味があったことと、英語に自信がなかったのでスキルを向上させたいというのが動機です。マレーシアAPUに決めたのは、初海外だったので近くのアジア諸国から行こうと思いマレーシアに決めました。また周りのプログラムは2週間が多かったのですが、費用が1か月でも2週間のプログラムとあまり変わらなかったなのでお得だしせっかくなら長く行こうと思って決めました。

滞在中は月曜から金曜まで毎日授業があり、午前中と午後それぞれ一コマ120分の授業を受けます。授業はリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングの四技能をそれぞれ扱い、現地の学生とペアになったり、他国の留学生たちとグループになって考えたり意見を交換したりするのでコミュニケーションをたくさんとれると思います。また放課後授業終わりには時間があるのでツインタワーに行ってショッピングしたり、屋台に行って現地のおいしい料理を食べたり、KLタワーに上って夜のクアラルンプールの景色を楽しめたり様々な経験をすることができます。さらに休日には自由参加型のツアーとしてAPUの関係者の方々が同行して、バスで平日には距離的に行けないようなところに連れてってくれます。私はそれでプールやバードパークなど様々なところに行きました。おかげで様々な経験ができました。

帰国後は英語のモチベーションが上がり、というのも今まで英語は苦手で嫌いだったけど英検でさらに上の級の合格や、TOEICでの得点アップなどを目標にして英語の力を養っていきたくて強く感じています。そのために英語を聞いたり、長文を読んだりする頻度がプログラム前と比べてかなり増えたのは英語に興味を持ち好きになった証拠なのだと思います。語学研修に参加するか悩んでいる方、様々な不安があると思いますが、行ってしまえば意外と何とかなってトラブルもありますが最終的にはいい思い出であふれると思うのでぜひ参加してください。



外国人の方と話すハードルが下がりました。

システム理工学部
機械制御システム学科 3年 塚瀬翔太さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム


■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先： マレーシア・APU

私がこのプログラムに参加しようと思ったのは他国の人たちと交流し会話することと、日本以外の国での生活を経験したいと思い語学留学をしようと考えました。また、今回のプログラムを選んだ理由は4週間という長い期間でありながら他のプログラムに比べ安い価格で参加できるため、英語に触れる機会が多くなると考えたためです。

プログラムの内容としてはリスニング・スピーキング、リーディング・ライティングの授業が2時間ずつの週5回となっており、APUの大学に通う学生とともに英語の授業をうけることができます。授業では外国の人と話すグループワークなどがあり、英語で話す機会を設けてくれるのでリスニング能力と会話能力を鍛えることができます。先生もとてもフレンドリーなので毎日の授業はとても楽しく能動的に授業を受けることができます。土日の課外活動ではマレーシアの有名な観光地に行くことができ、マレーシアの文化に触れることができます。

私が今回の留学を経験して考えたことはもっと早くに経験をしておけばよかったということです。多様な文化に触れ、様々な考えを持つ人と話すことは自分にとって良い刺激になるということ学びました。1年生や2年生のうちを経験できれば自分の視野を広げることができ、今後の自分の選択肢を広い範囲で考えることができると思います。留学に行くのは少しハードルが高いように思えますがぜひ1, 2年生の方々には経験して欲しいと思います。



留学を通して、英語だけでなく、マレーシアの文化も学ぶことができました。

システム工学部 電子情報システム学科 3年
杉浦 央晃さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可 派遣先： マレーシア・APU

日本ではなかなか英語を話す機会がなく、外国人と会話をしてみたいと思っていたので、今回留学を決意しました。一ヶ月と短期間で、比較的気軽に留学ができると思ったためこのプログラムを選びました。また、マレーシアの観光・大学・ホテル・朝食・昼食などの料金も含まれているため、かなり安い留学だったと感じています。

大学ではリーディング・ライティングの授業が2時間、リスニング・スピーキングの授業が2時間と、1日4時間の授業があります。グループワークがあったり、スピーチがあったりしたので、強制的に英語を話すことになるので、英語を話したいけどなんだかんだ話していないという人におすすめです。また、初日のテストでクラス分けがされるので、全く授業についていけないということはないと思います。土日はマレーシア観光でツアーのようなものがあります。参加は任意なので、ホテルで休んだり、個人的に観光したりすることもできます。勉強ばかりではなく、観光もできるため、満足度の高い留学になるはずですよ！また、マレーシア料理は辛いものが多いのですが、マレーシアには日本の店がたくさんあるので、食事で困ることはあまりないと思います。寿司やラーメン、牛丼などを食べることができました。

英語力が上がるだけでなく、就活の際にも留学経験として書くことができるので、この留学で得られるものは多いと思います。



様々な国の生徒たちと一緒に英語を学び交流することで、語学を学ぶ楽しさややりがいを感じることができました。

システム理工学部 電子情報システム学科 3年
二宮 健豪さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先： APU

自分の今後のキャリア設計を考えたときに、英語を集中的に学習して自分の英語力を伸ばす機会が必要不可欠であると感じていました。そこで自分が1, 2年生の時にはコロナ禍ということもあり積極的に参加できなかった海外への語学研修に、3年生として参加することを決めました。また2週間だと環境に慣れるのに精一杯で自分には短いと感じたため、コスト的にも期間的にも最適なアジアパシフィック大学への語学研修に行くことにしました。

現地につき英語の学習が始まると、初めは先生の言っていることを理解することや自分の思っていることを英語にするのにとっても苦労しました。しかし毎日英語を聴き、現地学生と英語を交えて交流することで徐々に慣れていき、英語を話すことへの抵抗も薄れていきました。特に与えられた時間の中で、決められた内容のプレゼンテーションをみんなの前で発表することは今までに経験したことがなく、とても大きな経験だったと振り返ります。またプログラム中は休日のアクティビティが多くあり、勉強から観光まで大満足な一ヶ月でした。加えて、芝浦だけでなく他校や他国の友達も多く作ることができ、交流の幅も大きく広がったと感じました。

僕はこの語学研修から、今まで得ることのできなかつた特別な経験をすることができました。帰国後は今まで以上に英語を勉強することのモチベーションが高くなり、継続して勉強することができています。あっという間に過ぎていった4週間でしたが1日1日がとても濃く、充実した毎日だったので参加しようか迷っている人がいたらぜひ大学生の間でしか味わえない経験をしてほしいと願います。



会話、交友関係、振る舞いなど、
将来の自分の自信に繋がる経験が
出来ました！

工学部 情報工学科 1年 田村 隼一さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可 派遣先： マレーシア・APU

きっかけは友人が行くという単純なところから始まりました。また、海外の空気に触れておきたいというこの2点が大きな決め手となって、今回の研修への参加を決めました。

授業は基本午前午後1コマずつ100分の授業を月から金まで行うものでした。授業形式は、発言自由のフリーな感じで行われていて、話せば話すほど授業が盛り上がり楽しくなっていました。

また、同じクラスの人と話すときには大体自国の文化の紹介をするので、研修に参加している学生の背景がよく見えました。アジア圏のいくつかの種類の子の国の学生が参加していたので、国によって性格も変わってくるのだという気づきも得られたりしました。

最後に、研修を振り返ってみると語学力の向上はリスニングの部分が飛躍的に向上したと感じました。他にも、ここそここの国の人の考えが似ているから仲がいいのかなというように、ワールドワイドに人間観察をする眼が養われました。また、会話が詰まったりしたときや、話したい文言の英語がうまく思いつかなかったときにどういうリアクションをすれば会話が進んだりするかなどのアドリブ力が鍛えられたりもしました。このように英語だけでなく、人間の奥にあるものも学べたりしたので、より人と関わるのが楽しくなったりしました。今後も英語を使う機会があれば、積極的に使っていきたいです。

多国籍な環境でコミュニケーションとしての英語を体験することができた

工学部 情報工学科 2年 牧野 陽太さん



参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可 派遣先： マレーシア・APU

大学院留学を含めた長期滞在を考えていましたが、これまでに海外経験がなかったため、その準備として語学研修に参加しました。英語力を高めることに加え、バックグラウンドの異なる人との交流をするためには多国籍な環境であるAPUがいいと感じたことと、4週間と比較的長い期間だったことが留学先を決める決定打になりました。

授業は午前2時間の午後2時間の計4時間で授業中にはディスカッションや自主的な発言を求められる場面も多くありました。授業内では基礎的な教養や、英語でのプレゼン力を身につけることが出来ました。また、放課後は他の国から来た学生と夕食やトランプを楽しみ、週末にはマレーシアの観光地を回るなど、充実した日々を送れました。

英語を学ぶ上で日常的に英語を使う環境に身を置いたことは非常によかったです。以前は短期間で英語を伸ばすことは出来ないから行く必要はないと考えていましたが、文化理解やコミュニケーションのために英語を使うという経験をするだけでも行く価値はあると思うようになりました。英語のツールとしての一面を実感し、今後の学習のモチベーションも高まりました。この留学で得た友人が日本に来た際により魅力を感じてもらうため、日本の文化や歴史についても勉強しておきたいと思います。また、別の大学も含め、この留学に参加したからこそできた友人もいます。これからもこの交流を続けつつ、お互いに英語勉強のモチベーションを高められたらと思います。



英語を話すことへの忌避感が減り、積極性が増しました。また英語の勉強に対するモチベーションが上がりました。

工学部 情報通信学科 1年 幾田結月さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否 : 可 ・ 不可

派遣先 : マレーシア・APU

私が今回の研修に参加した理由は、強制的に英語を使用しないといけない環境へ行き自身の能力向上を図るためです。海外渡航には前から興味があり、今回課題が出ていない長期の夏季休暇を有効活用するためにも思い切って一ヶ月間のプログラムを選択しました。

現地ではまずテストを受けてからレベル別の教室へそれぞれ振り分けられるため、自身の能力に合った授業を受けることができます。私は英語が苦手なため下の方のクラスへ配置され授業内容も文法の復習など簡単なものでした。しかし平日の午前に2時間、午後2時間と授業があり、当然ながらその全ての時間において英語で説明がされるためリスニング能力が向上しました。また授業では先生から発言を促されたり他の国からの学生と協力して課題へ取り組んだりすることが頻繁にありました。その際、日本語では簡単に説明できても英語で説明できないという事態が非常に多く発生しましたが、結果として自身の知識の範囲内でどうにか言葉を組み立てて話す力が培われました。また周囲の人々が例え間違っていたとしても回答や質問を行うため、自身も以前と比べ積極的な発言ができるようになりました。休憩時には他の国から来た人々とそれぞれの文化について話すことができ、お互いの国の違いを学ぶと同時に、伝わるまで言葉のキャッチボールを行う粘り強さを獲得できました。

語学研修前は食事や病気、衛生面、コミュニケーションなどに対して不安がありましたが、現地では上手く適応でき最終的には生活を楽しむことができました。ようやく英語や他の国の人々に対して積極的になれてきたところで研修が終了したため、もう少し現地へ滞在し様々なことチャレンジをしてみたかったです。現地で思うように話せなかったこともありましたが、帰国後はそれをモチベーションとしてより英語に励んでいきたいと思えます。



現地の人と積極的に話したことで、英語で会話をする時の自信ができました。
この留学を通して英語学習のモチベーションがあがりました！

工学部 電気工学科 2年 佐々木 潤世さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先： マレーシア APU

今回自分は、海外に行ったことがなかったということと、留学は大学生の今のうちしかできないという思いから留学に行こうという風に決めました。アジアパシフィック大学のマレーシア1ヶ月のプランを選んだ理由は、近年マレーシアで英語が発達していると聞いたことと、語学研修プランの中で最も長い1ヶ月間で、最も金額が安いプランだったこと、派遣先の大学が国際色豊かで、環境的にも留学に適していると考えたからです。

普段の生活は、朝10時頃から16時頃まで大学で英語の授業を受け、その後放課後は各自でご飯を食べに行ったり、コインランドリーに洗濯をしに行ったり、好きなところに行ったりと自由行動をしていました。朝食と昼食は毎日食券で無料で食べることが出来たので良かったです。昼がいろんな国のおいしい料理を食べることが出来たので、毎日楽しかったです。学校では、現地の学生と話したり一緒にお昼ご飯を食べたりして交流を深めることができ、そこでいろんな発見があったり、英語で会話をする自信をつけることができました。英会話は流暢にはできませんが、わからなかったらもう一度ゆっくり話してもらったり、写真を使って話したりして、なんとかコミュニケーションをとることはできました。また、休日はみんなで見学地やアクティビティスポットや観光名所に行ったので、とても充実していて楽しく過ごすことができました。

この留学を通して、海外の文化や環境について実際の体験を通して知ることができました。また、現地の人たちだけでなく、他の国からの留学生もたくさん来ていたので、海外の人とたくさんコミュニケーションをとったことで英語でコミュニケーションをとるときの自信が養われました。本当に満足な良い経験をすることができました。



一か月間海外で生活してみて学校で学ぶ英語と実際に使われる英語の違いを実感できた

工学部 電気工学科 2年 棚橋正光さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可 派遣先： マレーシア APU

僕は今回自分の価値観を変えて広い視野を持つために語学研修に参加しました。夏休みの間に行ける中でほぼ最長の1ヶ月という期間にひかれてAPUを選びました。

平日の授業はもちろん英語で受けました。細かい文法というよりは自分で文章を書く時のフォーマットであったり、便利な表現だった事を学びました。最初は先生の英語がなまりだったり省略形があったりでうまく聞き取れませんでした。最後のほうには知らない単語以外ほとんど聞き取れるようになりました。リスニング力はこのプログラムに参加するだけで向上すると思います。ディスカッションの時間もあり、楽しみながら授業を受けられました。海外の人と同じクラスで授業を受けたいと思うのなら語学研修前のある程度英語の力を身に着させておく必要があると思いました。というのも最初に受けるテストの成績でクラスがレベル分けされるからです。海外の人は高いレベルに集まりやすいのである程度備えておく必要があると思います。もちろん同じクラスに海外の人が少なくてもほかに出会いやコミュニケーションの場はたくさんあったので海外経験という点において不自由はしませんでした。

週末のレクリエーションでは様々な観光地に行くことができ、そこで買い物だったり受付だったりをするので雑談以外の実用的な英語を使うこともできました。今まで英語は完ぺきに話さないと伝わらないという不安がありましたが、実際はボディランゲージやある程度の単語を並べるだけで通じることがあって、今後の英語学習で何を重点的に学べばいいかの指標になりました。

今回、日本で過ごしていたら経験できないことをたくさん経験することができました。英語が得意でなくても海外の雰囲気や文化を感じるだけでも十分に価値があるので参加することを勧めます。

心配するほど怖いものではない！！
また聞こえる言語が英語、マレー語のみで耳を鍛えるのに向いていて、自信をつけるのにも最適！



工学部 応用化学科 2年 一村 幸輝さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可 派遣先： マレーシア・APU

参加する前は、英語自体はある程度できたものの苦手意識が拭えませんでした。加えて、何故か海外というものの自体に根拠のない嫌悪感を持っていました。ただ、この社会においては英語だったりの日本人以外とのコミュニケーション手段は必須であり、苦手どうこう言われるものでないことも理解していました。そこで自分に対する荒療治の意味も込めてこのプログラムに参加しました。

APUでの授業を受けるクラスはプレイスメントテストの結果によって決められていて、あまりに英語力の離れた学生と共に授業を受ける訳ではないので過度に心配しなくて大丈夫です。自分の受けたクラスは日本人が比較的多かったのですが、ジブチ、ロシア、イエメンなどからの学生もいました。授業は英語4技能(リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング)について行い、内容はゲームをはさみながら進めていくタイプでした。

日常生活については概ね週5授業、残りは観光や休息という感じでAPU側で土日の観光計画を立ててくれますが、必ずしも参加する必要はなく、逆に後半になるにつれて自由に観光するという人が多かったように思います。食については、何分大体の食べ物が甘かったり辛かったりがきついで、食が合わなかったなどの、もしものためにフリーズドライの味噌汁や災害用のα化米でも持っていけば死ぬことはありません。食に慣れれば、無論地元の屋台で食べてもいいし、grabというタクシーにも出前にも使えるものがあり、そこで好きな食べ物を出前を取ることも可能です(SIMでないと電話番号がないため登録できず利用不可)。また自分の部屋に籠城しないのであれば、でかいマーケットのフードコートには世界各国の食べ物に加えて日本食も大体あるので駆け込み寺として利用できます。

4週間という期間は現地に慣れるのに1週間、挑戦するのが2週間、ダメ押しの1週間と長すぎず短すぎずの最初の留学としては最適な期間だと思います。また当たり前ではありますが大学内では英語が主言語です。よって日本ではありえないほど英語を聞き、話すことになります。まず聞き取れないと話にならないので聞く能力は伸びます。また、クラス内の外国の方は言語レベルが一緒ぐらいなので言語を実践するという点ではとても練習になり、自信にもつながります。

迷ってるなら兎にも角にも行ってみるべし。案ずるな死にはしない。